

街を行く

第140回 ニューヨーク New York City

コロナの脅威は何処へ？



富裕層に飛ぶように売れているマンション「セントラルパーク・タワー」。一般人はセントラルパークで憩う



米国・ニューヨークに来ています。前回訪問は2019年8月ですから何と3年ぶり。渡航制限と行動自粛で目新しさや刺激がない日々は過ぎるのが速いですね。その間われわれの社会生活が変化したように米国も変わってきたようです。

たとえば物価高騰。好景気の反映だとは言っても、街で見かけるホームレスの数は3年前より明らかに増えました。その様子はさながら1980年代後半(小生のNY駐在時期)のようです。庶民の暮らしにインフレは相当厳しそうですね。

好景気なのは限られた富裕層で、ますます庶民とのギャップが広がったことでしょう。

中間層以上の人々といえ、そんなことは気にせず消費に酔っているようです。街中のレストランや娯楽施設は賑わい、人々は会話と食事を大いに楽しんでいきます。

あと、もはや人々は総じてコロナを恐れず、マスク着用者はほぼ見かけません。着用者がいれば人々の目に奇妙と映るほど日常に戻ったという感じです。それなりのリスクはあるのですが、欧米人は何事も自己責任で生きる国民性だからでしょう。街を歩く旅行者は米国内からか欧州人がほとんどで、日本人を含むアジア人をほぼ見かけないのはその現れかも知れません。

富裕層はすこぶる景気がよいようです。高級マンションが飛ぶように売れているのがそれを物語っています。ちまたでは近くリセッション(景気後退)到来の予測も出ていますが、彼らに影響はないのでしょうか。

写真のペンシル型の建物は「セントラルパーク・タワー」で現地デベと中国企業のJVが開発した130階建ての分譲マンション。ひと昔前なら当然日本資本とのJVだったはず。時代の波を感じます。

経済成長を追う国でなくなった日本は、この先“らしさ”をどう出していくのか…。と考えていたら疲れてきました。いつの間にか宿泊先ホテルのある38丁目から98丁目まで60ブロックを歩いたので、それもそのはずですよ。目の前には「セントラルパーク」があります、ここは昔と変わらず落ち着きますね。

今回は「ソーホー」の街を歩き案内してみたいと思います。

南一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。